

きゅうりこれからの管理

【雨除け胡瓜について】

ハウス内が乾き過ぎないように十分な灌水を行っていきましょう。灌水を行っていても通路が乾燥しているようでは不十分になります。晴天日が続く場合湿度確保も考えた中で通路灌水も検討しましょう。また、ハウス内が高温状態であると、草勢は低下し生育及び果形が悪くなります。できる限りの換気の徹底を行って下さい。

整枝作業につきましては枝の伸びが良い場合、混み合うようになってきますので、摘芯・摘葉作業はこまめに行なっていきましょう。混み合い過ぎている場合は摘葉を優先に管理し通気性の良い状態にして下さい。

灌水間隔につきましては圃場が乾くようであれば毎日、場合によっては1日2回（朝、夕）行ないましょう。追肥につきましても同様に、灌水時には毎回行なうようにして下さい。朝夕2回行なう場合には、追肥は朝行うようにしましょう。

【露地胡瓜について】

露地の場合も晴天が続くと圃場内は乾燥してきます。十分な灌水を行っていきましょう。逆に、雨天時が続いたり大雨により圃場内が灌水状態になった場合、排水が悪い状態であると根腐れを起こす可能性もありますので、排水対策も行って下さい。

整枝作業につきましては混み合うところを中心に摘葉して行きましょう。ただし、側枝については摘み急がないようにして樹勢の維持をして下さい。

灌水につきましては、圃場内が乾くようであれば毎日行ないましょう。追肥についても灌水と同時に施用して下さい。また、通路に置肥を施用するのも効果的です。

○葉面散布・発根剤の使用を定期的に行い草勢の維持に努めて下さい。

パワフルグリーン2号	500～1000倍	RBパワー	10a/2リットル
メリットシリーズ（青・黄・赤）	300～400倍	夢	10a/5リットル
ベストII	500～1000倍		

○定植後、どうしても萎れがひどい場合。蒸散抑制剤の使用を行う。

プロテック	蒸散抑制効果として～	200～300倍（単剤使用）
	展着剤として～	500～1000倍（農薬混用可）

【農薬防除について】

病害虫の発生が多くなってきます。特に害虫につきましては、ウイルスを媒介するアブラムシ・スリップス・コナジラミを重点的に防除しましょう。

また、作付終了後は雨よけ栽培につきましては蒸し込み管理、露地栽培につきましては農薬による重点防除後、速やかな片付けすき込みを行って下さい。

作付圃場周辺及び本圃周辺の雑草の除草対策も同様に定期的に行いましょう。

今年も実施しましょう。

今年も昨年同様、7月～9月までの期間、毎月15日を目安に圃場周辺の定期除草を実施して頂きますよう。御協力の程よろしくお願い致します。

果樹園の管理(6月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。気温も高くなってきますので管理を充分に行い、病害虫の発生にご注意ください。

1. 日向夏の管理

(1)水管理

夏季に乾燥が続く場合や、傾斜地・耕土の浅い土地など乾燥しやすい園地では定期的にかん水を実施して下さい。また、かん水設備の無い園地は、梅雨明け前に敷きワラ、敷き草を行い土壌の水分蒸散及び養分の流出を防ぐ様にします。

土壌が乾燥状態となると、果実肥大が不良となりホウ素欠乏等の微量要素欠乏も発生しやすくなるので注意が必要です。

(2)葉面散布の実施

果実肥大、緑化促進のため、葉面散布を実施します。

果実肥大…パワフルグリーン 2号 800倍

(3)夏季剪定

剪定が不十分な園地では補足的な剪定を実施します。方法は内部まで十分に光が当たるように間引き剪定を行って下さい。太い枝の切口については処理を行って下さい。アルミホイルを被せておくと新梢の発生を抑えることができます。

(4)病害虫防除

8月より袋掛けを行います。袋を掛ける際はハダニの防除を徹底しましょう。

使用薬剤…果樹農産課までご連絡下さい。

2. スイートスプリングの管理

(1)病害虫防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病、黄斑病等の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。

台風通過後は多発生の恐れがありますので必ず前後に散布して下さい。

病害虫名	使用薬剤	使用倍数	使用方法
かいよう病	Zボルドー	500倍	混用散布
	クレフノンまたは バイカルティ	200倍 1000倍	

3. 台風対策

これから台風の時期となります。事前に対策を行い、被害を抑えましょう。

- 対策—
- ・排水溝や土どめ対策を整備し、階段の崩壊や土砂の流出・流入を防ぐ。
 - ・幼木、若木や高接ぎ樹などは太い竹で支柱を立て結束する。
 - ・防風林の補強手入れを行う。
 - ・台風通過後はかいよう病等の防除を実施する。

※農薬の使用については、使用基準（摘要作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用して下さい。

※近接園への飛散について十分注意して下さい。

連絡先……果樹農産課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

湿度も気温も高く、農作業も大変な事と思います。収穫作業や作付け準備等、不安定な梅雨空の下、作業もなかなかはかどらないとは思いますが収穫作業は天気の良い日、又は土が乾いてから行って下さい。湿気（水分）が残っていると、作業中にできる傷に土壤中の病原菌が侵入し、繁殖してしまい、腐敗やカビの発生原因となります。調整作業も風通しの良い、日陰などで行って下さい。

<栽培管理について>

- ・排水溝の整備を行い、水はけを良くしてください。
- ・天気が良くなるとアブラムシ、スリップス、ダニ、ヨトウムシ等が発生します。予防策を徹底してください。

アブラムシ ⇒ シルバーテープの設置 (キラキラ光る事で寄せ付けない)

ヨトウムシ ⇒ フェロモントラップの設置 (雄の成虫を捕獲することにより繁殖を防ぐ)

ダニ・スリップス ⇒ 葉に付きますが、樹勢が良ければ生育を阻害されことはありません。
作物活性剤等の定期的散布により樹勢を強くしてください。

※高温・乾燥により害虫は多く発生しますので、スプリンクラー等で散水し、乾燥を防ぐと発生が抑えられます。

・里芋・

里芋が最も肥大する時期に晴天日が続くと土壌が乾燥し、水分不足となります。里芋は乾燥害を受けると収量が激減し、品質の低下も大きいので、かん水可能な場所では5～6日間隔で1回のかん水量20～30mm程度を目安にかん水を行ってください。マルチを除去した所では土寄せを行ってください。また、元肥が少ないところや肥料が雨等で抜けたところ等では追肥（粒王7号2～3袋、樹勢を見ながら）も行ってください。

ヨトウムシ・アブラムシ・ダニ等の発生が多くなります。発生が見られる前の予防策を行ってください。（産直契約出荷分は農薬の使用はできません。）

・白ネギ・

高温・乾燥により害虫の発生が多く見られます。予防策を徹底して下さい。定植後40～50日が初期生育の旺盛な時期である為、土寄せと一緒に追肥も行ってください。第1回目の土寄せから20～30日間隔で、除草作業も兼ねて土寄せを行ってください。

軟白部分の長い品質の良い白ネギを生産するためにはかかせない作業です。除草作業も必須です。怠らないようにしましょう。

・人参・

尻詰まりしてきたら収穫適期です。出荷規格に基づき収穫出荷を行ってください。収穫は、土が乾いてから行って下さい。人参に土がついたままになると腐敗の原因になります。うどんこ病が発生している圃場は早めに収穫してください。

・甘藷・

定植後、100～120日が収穫適期になります。栽培期間中、雑草が多かった圃場では早めに収穫をするようにしてください。

排水不良による腐敗等も予想されますので、排水溝の整備も行って下さい。

・かぼちゃ・

果梗部全体にコルクがまわったら収穫適期です。未熟果の収穫は腐敗の原因となります。収穫後はキュアリングを行い、完全に風乾を行ってください。

＜キュアリングと風乾について＞

キュアリングとは風乾前に果実をハウス内の高温条件下に置き、収穫時の傷口をコルク化させたり、病原菌の抑制、果梗部の乾燥を促進させ、出荷後の腐敗を抑えます。

風乾については、キュアリング後に果実を乾燥させ、澱粉質から糖質への移行を促進させます。

－方法－

- (1)ハウス内に台を作り、スノコなどの上に南瓜を重ね、日焼け防止のためにムシロをかぶせる。
- (2)ハウス内を密閉して35～40℃の状態を1時間行った後、直ちに換気し温度を下げる。
- (3)この作業を2回(一日1回×二日)行い、直ちに風通しの良い日陰に移し、一週間程度風乾する。
- (4)梅雨時期など湿度が高い場合は、扇風機などを利用し、果実の乾燥に努める。

夏・秋作の準備について

春作収穫後、次の作を作る前に圃場の土作りを行いましょう。

完熟堆肥の投入は作付け1ヶ月前までに行なって下さい。1年に一度は投入しましょう。また、未熟堆肥の使用は、いろいろな病害虫の発生原因となります。必ず完熟堆肥を使用してください。

センチュウ対策などには、ソルゴーなどの緑肥作物を作付けし、播種から50～60日後にはすきこみできます。

土壌分析を行いましょう

圃場の土壌状態を知ること、適切な施肥や適切な管理を行うことができ、品質のよい農産物を生産することができます。収穫終了後、堆肥を投入する前に土壌分析を行ってください。

過剰による病害の発生等、養分吸収の阻害など問題がありますので、必ず分析を行ってから施肥をして下さい。

詳しい内容は開発センターまたは果樹農産課まで。

問い合わせ先：果樹農産課 77-2216